

未来のスケッチ

北海道旭川市にある旭山動物園をご存知ですか。

それは 14 板の未来へのスケッチをきっかけに廃園の危機を乗り越え立直り、一時は年間 300 万人の集客力を誇り東京上野動物園を凌ぐ奇跡の再生を成し遂げた動物園のお話です。

パンダもコアラもない北の最果ての、たった 20 名の職員で運営されている動物園の出来事です。それぞれ大きい小さいは別として一定の軸を持った信念、その思いをスケッチに落とし込みゆるがない“串だんご”のような軸を持って動物たちの持つ本来の行動を展示する手作りの現場、必ずしも成功するとは限らない強烈な原体験を試行錯誤して小さな創意工夫を積み重ねた“際立った”他に見られない戦略と行動。そこではさりげなく手伝ったり、ありがとう、おはようの声かけから始まる人間関係、個々の動物との触れ合いから生れる発想、お互いに助け合う相互学習など私共が学ぶところが沢山あります。未来へのスケッチを画くには皆が常に変わらぬものを持ち明るく、素直で、前向きであることが必要であると述べられています。北九州市の到津動物園で旭山動物園の動物たちの行動展示の実況中継を見たことがあります。一度訪れてみたいものですね。

2010 年 5 月 10 日

理事長 市丸 喜一郎

参考書：未来のスケッチ

遠藤 功 著

あさ出版

(将来構想委員会に回覧中)